

「けやき俳句の会」会報（第九十三回）

令和元年八月

第九十三回句会記録

★日時 八月七日

★場所 けやき学習室

★真樹先生投句

①ゴッホの画集開きて端居夜空かな

水馬の水輪刹那に消す小雨

万緑分け水の刹那の豪壮に

★真樹先生選句（◎は特選）

◎⑤夏草にまぎれ育ちし九男坊

◎⑤死の淵を覗く刹那に昼寝覚め

◎④蛩の刹那を愛でる手の中で

④窓一つ占有したる牽牛花

④片陰に半身入れて赤信号

③飛翔せしあとの残像黒揚羽

③伊八彫りし波音古刹の蟬の声

③日盛りや古刹大屋根白びかり

②三井寺てふ古刹亡父と首夏詣

②暑気払持病自慢のいつもの店

②訪ね来し古刹の庭の合歓の花

②蟠り朝まで解けず青柿落つ

②妣の笑みまろかコスモス仏壇に

①夏草はダイヤモンドや尾瀬の朝

①敗戦日きけわだつみのこえ読みつつ

①博物館百年刹那夕焼けて

★会員互選句

④年毎に鬼簿厚くなる原爆忌

④梅雨晴間ベランダ越しの手話と手話

③でで虫のごと年金生活朝夕に

③和菓子屋の入り口に風青簾

②古刹道喘ぐ目先に秋の蝶

②蟬しぐれ声なく失せる流転かな

②名刹の甕をおおふ山若葉

②病得し心に沁みる緑雨かな

夢城 冬水 香魚 樹音 清明 冬水 清明 樹音 青嵐 樹音 青嵐 秋雲 秋雲 秋雲 藍愛 藍愛 香魚 蕉哉 蕉哉 一華 要 樹音 而今 而今 東洋 東洋

- ②塵取も昼寝してゐる小豆島
  - ①素麺を綴じ紐解きて湯に放つ
  - ①早暁やカナカナ啼いて友逝きぬ
  - ①夏めぐり昏睡の友訃報来る
  - ①太宰が詠みし月見草今は無し
  - ①名刹や護摩焚く僧ら緇の衣
  - ①青梅雨や皇居の見える喫茶店
  - ①喜々と声とともに浮かべて夏の風呂
  - ①初尾瀬に足元揺らぐ水葵
  - ①誕生日令和の御世の終戦忌
  - ①日焼け止めの空瓶二本夏果つる
  - ①梅雨深し庭は毬藻の湖のごと
  - ①焼茄子とろける刹那うなる声
  - ①煙突が峰雲つくる午前五時
- 冬水 青嵐 青嵐 青嵐 誠 誠 要 要 紀泉 真弓 蕉哉 隼人 春草 春草 藍愛

【次回開催】

★日時・令和元年九月四日（水）

★場所・けやき学習室

★提出句・兼題「風」を含め三句